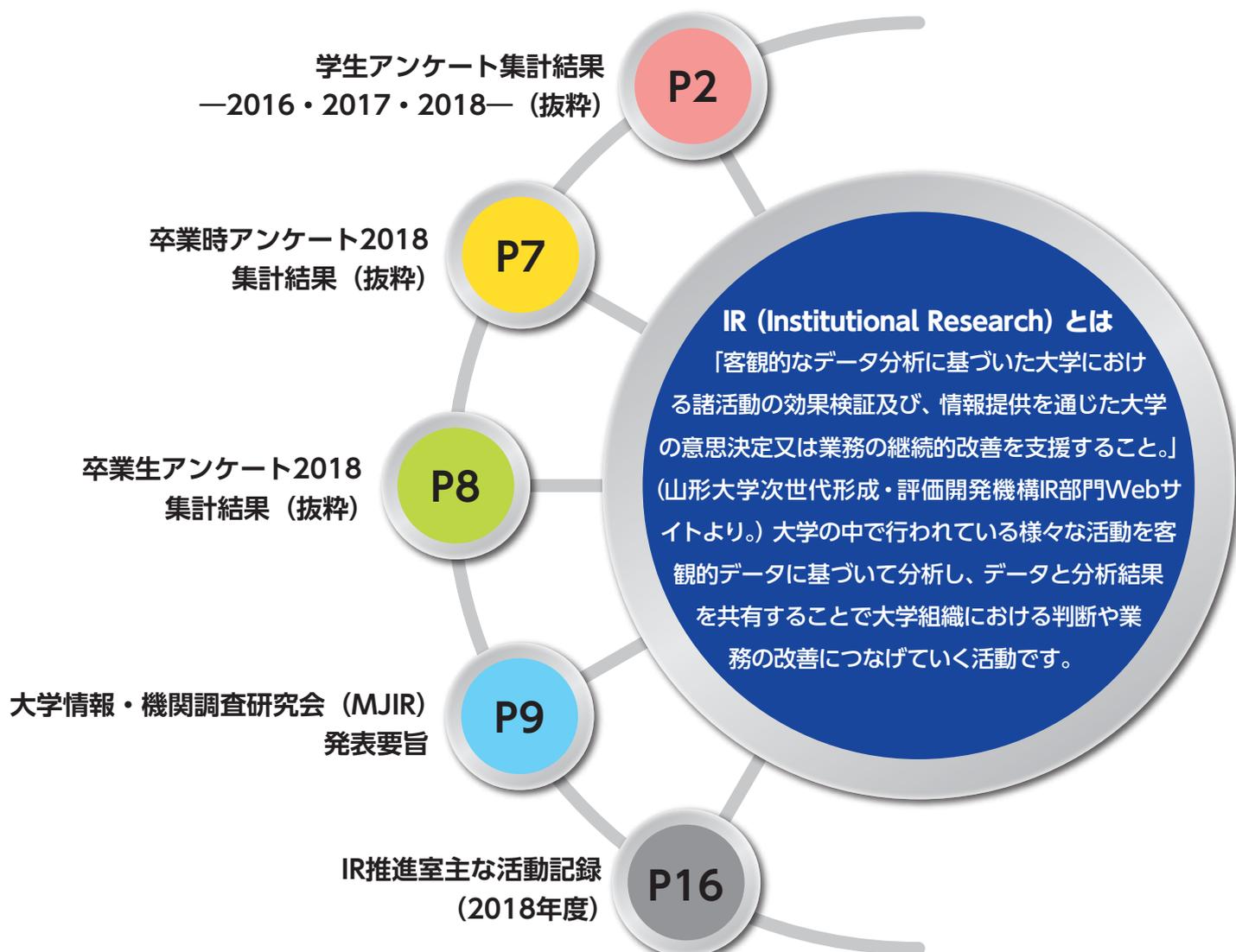


神田外語大学 IR推進室 年次報告書2018

2018 Annual Report of the Office of Institutional Research

神田外語大学は、学生の学修成果を把握し、エビデンスに基づくPDCAサイクルを強化するために、学習プロセスの間接アセスメントとして2016年度から大学IRコンソーシアム加盟校共通の「学生アンケート」を毎年行っています。2018年度は新たに、「卒業時アンケート（2018年度卒業生対象）」と「卒業生アンケート（既卒生対象）」を実施いたしました。

本報告書では、これらアンケートの分析結果（抜粋）とともに、2018年8月に開催された大学情報・機関調査研究会（MJIR）での発表論文の要旨をご紹介します。



学生アンケート集計結果 —2016・2017・2018— (抜粋)

●本学における共通学生アンケート実施状況

対 象：学部全学生

調 査 方 法：Googleフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約25分

内 容：大学 IR コンソーシアム共通の項目に、留学やゼミ等、本学独自項目を追加

実施年度	2016年度	2017年度	2018年度
実施期間	9/15～11/8	9/13～10/31	9/13～10/31
対象者数	3,862	3,949	4,008
回 答 数	396	1,260	863
回 答 率	10.3%	31.9%	21.5%
集計結果 U R L	https://goo.gl/uXtjEh	https://goo.gl/CWgthr	http://bit.ly/2H8VcVP
集計結果 QRコード			

●大学 IR コンソーシアムについて

大学 IR コンソーシアム（以下、「コンソーシアム」）は、平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」（GP）に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出一国公私立4大学 IR ネットワーク」を基盤として、同プログラムの代表校である同志社大学、連携校の北海道大学、大阪府立大学、甲南大学が中心となって、2011年度にコンソーシアム設置準備委員会を組織し、2012年9月25日に正式に発足した組織です。現在では、全国の国公私立57大学が加盟しています。

コンソーシアムでは、教学評価体制の基幹をなす IR ネットワークシステムの運営を行い、情報の一元管理、個別の大学での教育効果の測定および学生調査による連携大学間での「相互評価」の機能や機会を会員校に提供しています。

●共通学生アンケートについて

共通学生アンケートは、大学 IR コンソーシアムが「学生調査」として設計したもので、授業経験や学習行動、知識・能力の獲得状況、英語運用能力のレベル、大学教育に対する満足度といった学生の認知的・情緒的側面を重視した調査項目で構成されています。大学 IR コンソーシアム会員校が共通のアンケートを継続して実施することで、学生調査の結果を大学 IR コンソーシアム会員校全体と比較でき、各大学の特徴（強み、弱み）を見出すことができます。

なお、本学では共通学生アンケートに独自項目を追加し、Web による回答で実施しています。



学内にポスターを貼ってアンケート実施を周知しました。

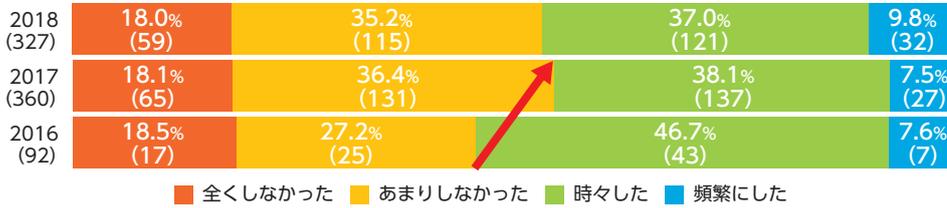


図書館、SALC、MULC、メディアプラザ、学生食堂にステッカーを貼って回答を促進しました。

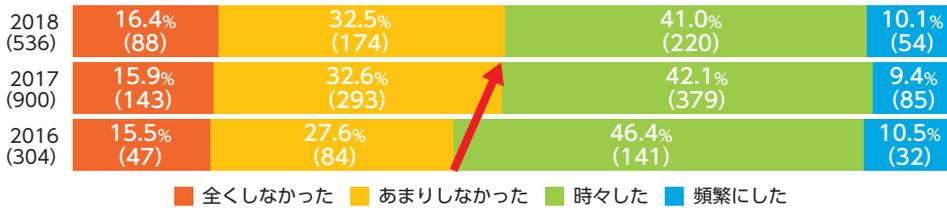
●共通学生アンケートの集計結果 —2016・2017・2018—

学習態度：授業中に居眠りをした

(1年生)



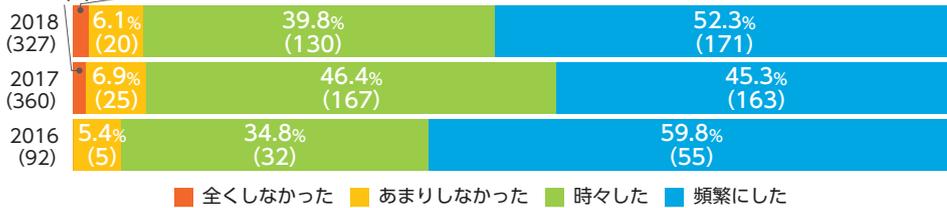
(上級生)



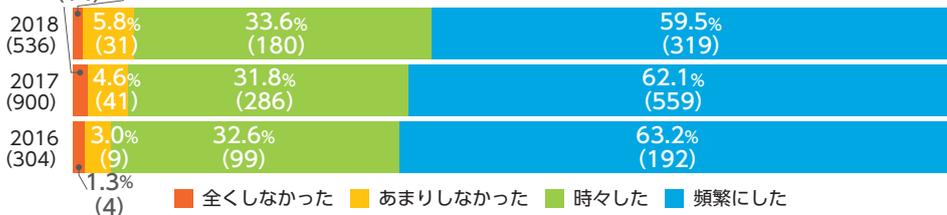
1年生・上級生いずれも、授業中に居眠りをする学生が減少傾向にある。

学習態度：授業課題のために Web 上の情報を利用した

(1年生)

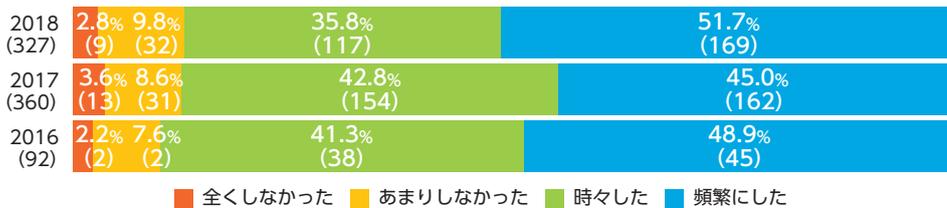


(上級生)

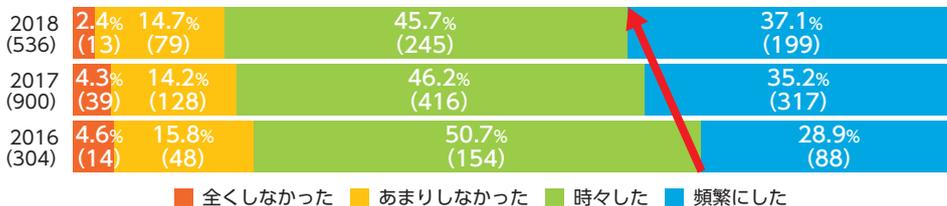


学習態度：授業時間以外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

(1年生)



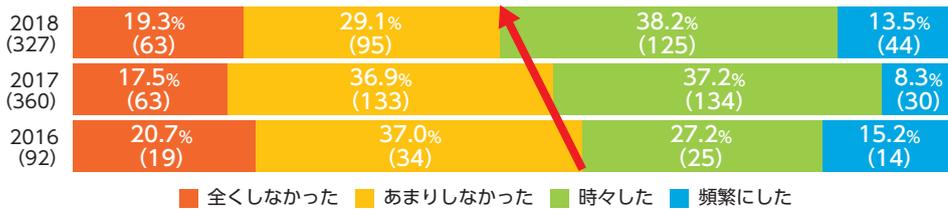
(上級生)



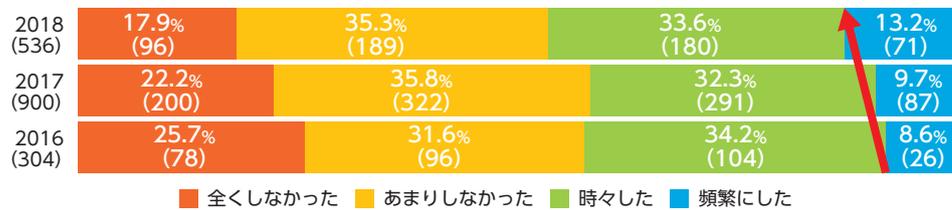
上級生において、授業時間外に他の学生と一緒に勉強する学生が増加。

学習態度：教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

(1年生)



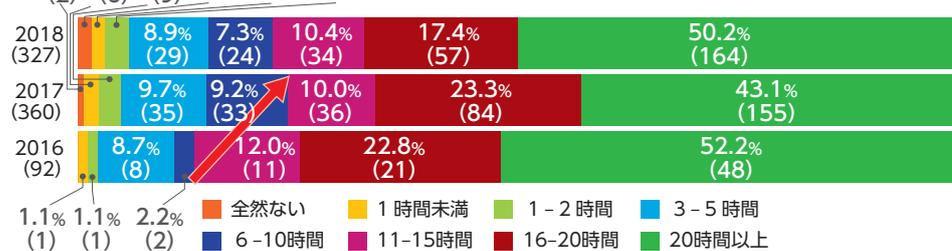
(上級生)



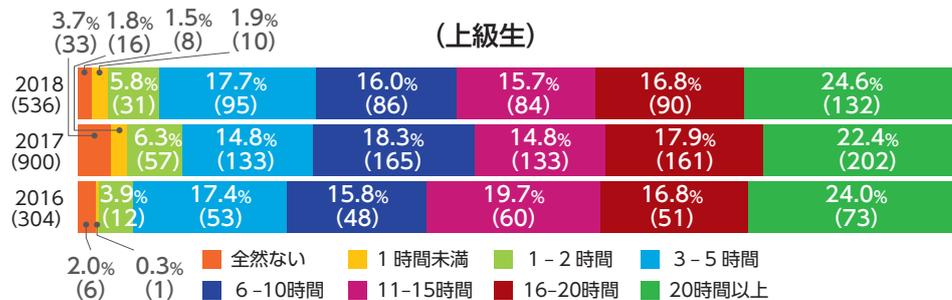
1年生・上級生とも、教職員に学習相談をする学生が増加傾向。

活動時間：授業や実験に出ている時間／週

(1年生)

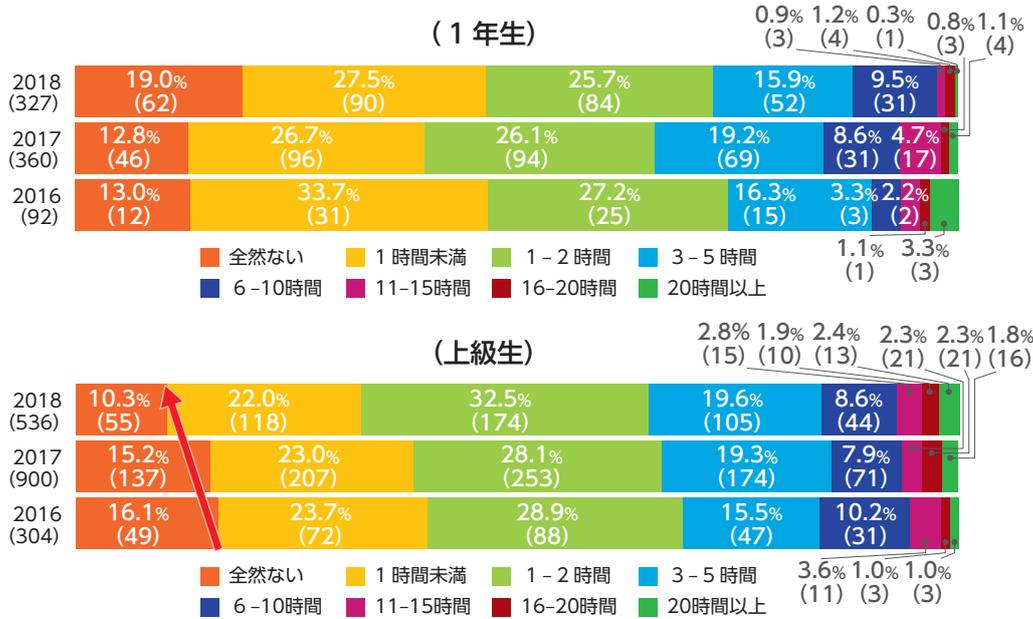


(上級生)



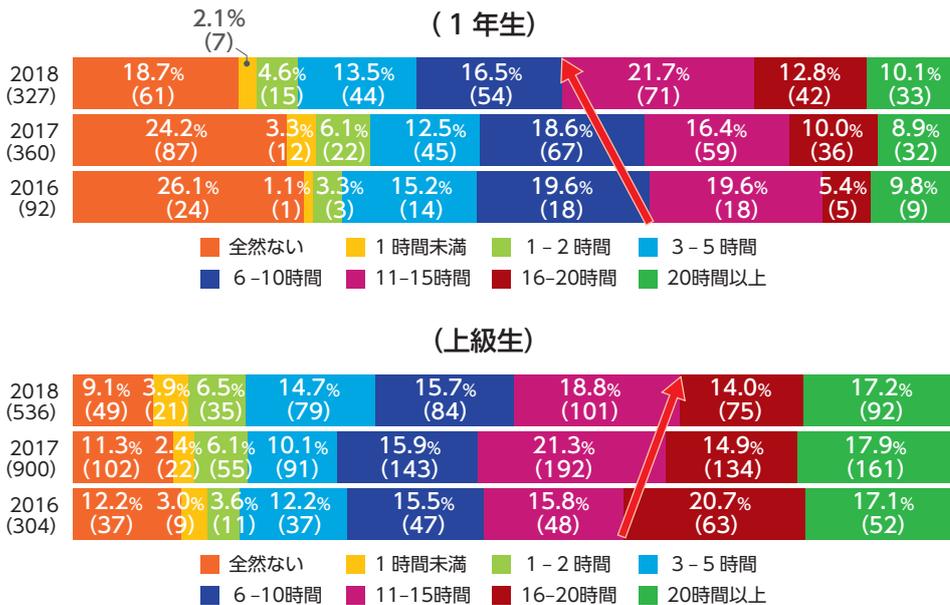
授業に出ている時間が少ない1年生が増加している。

活動時間：授業以外に、授業に関係しない勉強をする時間／週



上級生で、授業に関わらない勉強をする学生の割合がやや増加。

活動時間：大学外でアルバイトや仕事をする時間／週



長時間アルバイトをする学生は1年生で増加傾向。一方で、上級生では減少傾向。

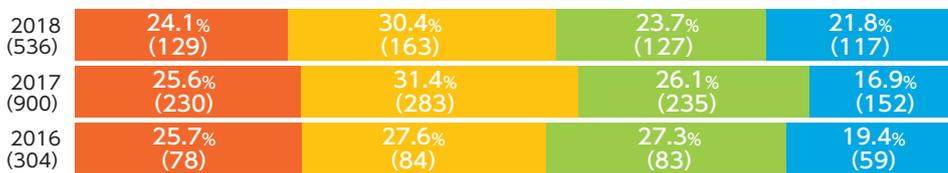
将来の見通し

(1年生)



- 将来の見通しを持っている+何をすべきかわかっているし、実行もしている
- 将来の見通しを持っている+何をすべきかわかっているが、実行はできていない
- 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 将来の見通しを持っていない

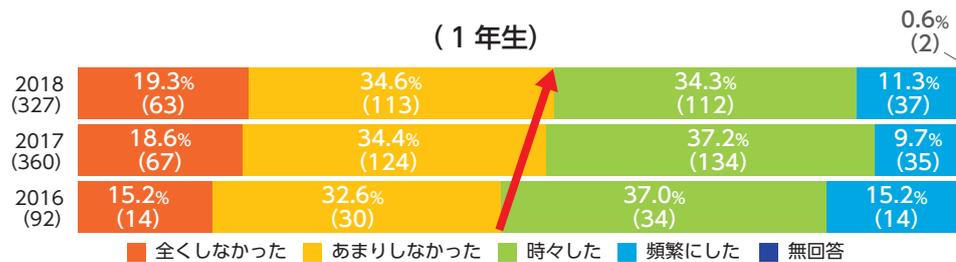
(上級生)



- 将来の見通しを持っている+何をすべきかわかっているし、実行もしている
- 将来の見通しを持っている+何をすべきかわかっているが、実行はできていない
- 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 将来の見通しを持っていない

高校3年時の学習経験：授業中に質問した

(1年生)

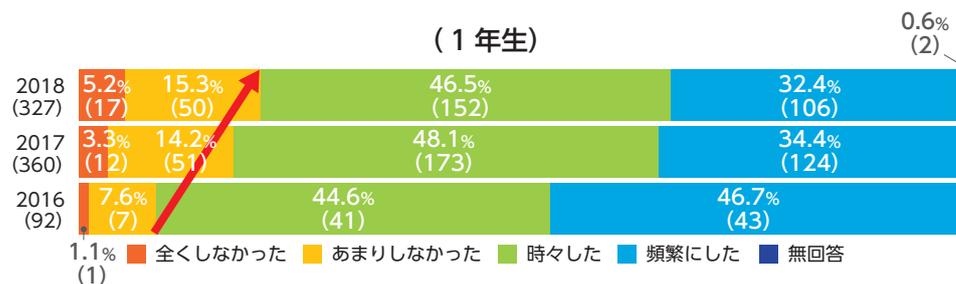


- 全くしなかった
- あまりしなかった
- 時々した
- 頻繁にした
- 無回答

「高校3年時、授業中に質問した」と回答する学生は減少。

高校3年時の学習経験：自分の失敗から学んだ

(1年生)



- 1.1% (1) ■ 全くしなかった
- あまりしなかった
- 時々した
- 頻繁にした
- 無回答

「高校3年時、自分の失敗から学んだ」と回答する学生は減少。

卒業時アンケート2018集計結果 (抜粋)

実施期間：2019年3月14日(木)～4月1日(月)

対象：2018年度卒業生

対象者数：779人

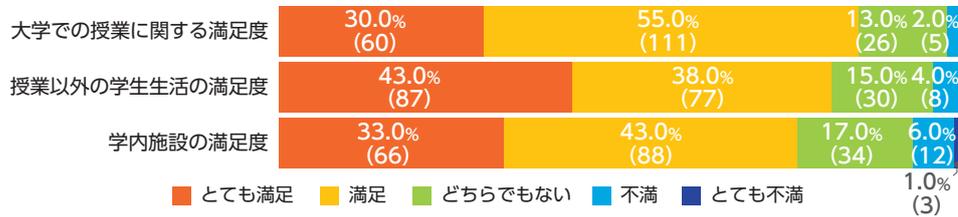
回答者数：203人 (回答率26.1%)

調査方法：グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約5分

調査項目：満足度 (授業・学生生活・施設)、大学で身についた能力、卒業後の進路、4年間力を入れたこと等

授業・学生生活・学内施設に関する満足度



とても満足+満足が70~80%、授業の満足度は最も高い。

入学してよかったか



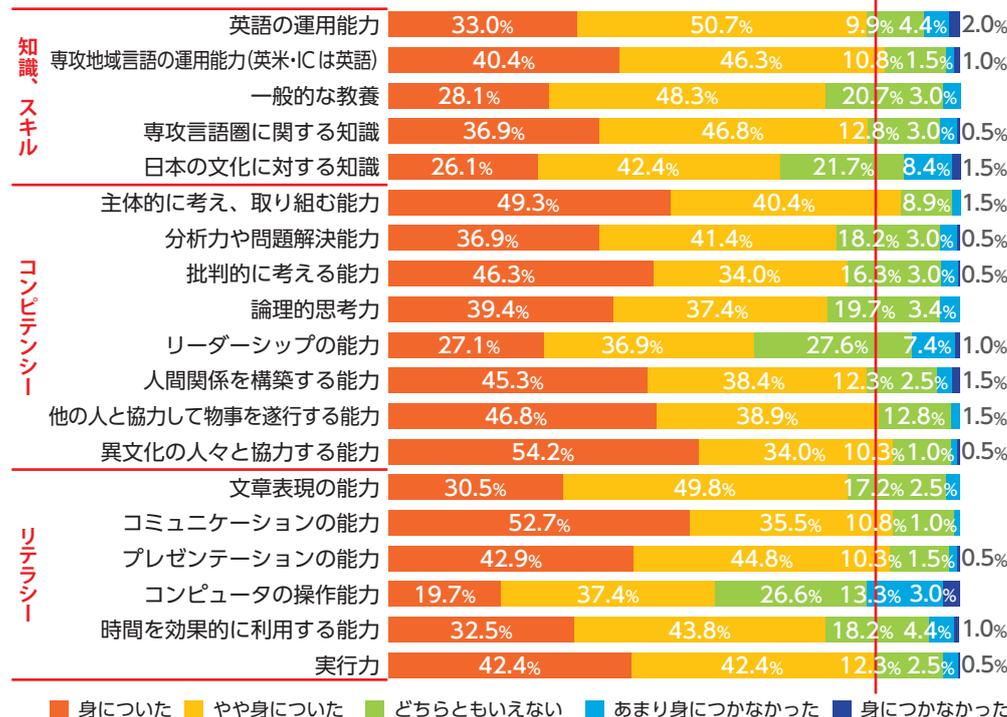
87.2%が肯定。

知り合いへの推奨度



推奨度84.7%。

大学で身についた能力



言語の運用、主体性、異文化協力、コミュニケーション能力が身についた。

卒業生アンケート2018集計結果（抜粋）

期 間：2018年12月8日(土)～2019年3月30日(土)

対 象：既卒生

回 答 者 数：196人

調 査 方 法：Googleフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約5分

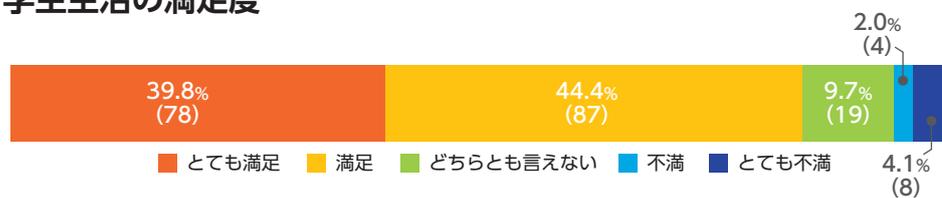
調 査 項 目：IR コンソーシアム共通

満足度（教育・研究／学生生活）、大学卒業後の仕事について、社会で求められる能力等

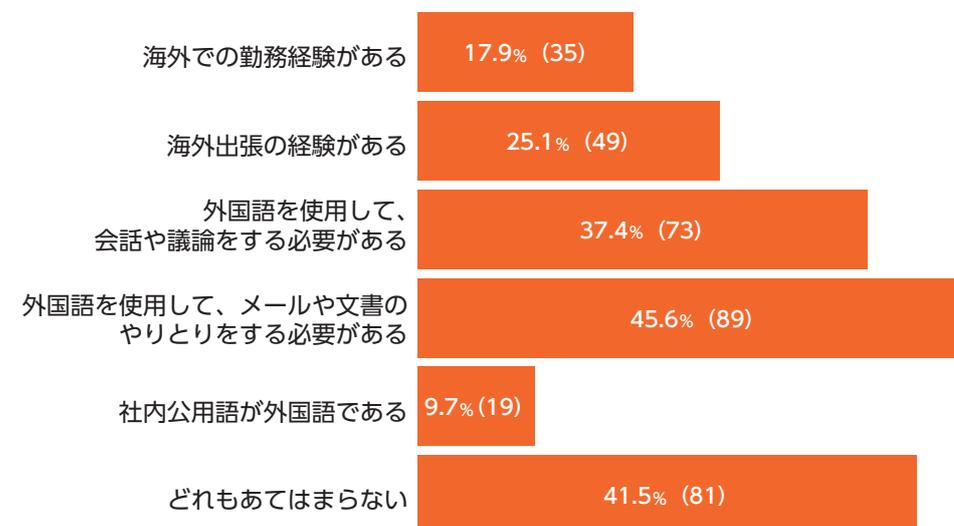
教育・研究の満足度



学生生活の満足度



海外での勤務経験や業務における外国語の使用



大学情報・機関調査研究会 (MJIR) 発表要旨

2018年8月18日、19日に開催された第7回大学情報・機関調査研究会 (MJIR) 研究集会において、本学は「学生アンケート回答率向上の取り組み事例報告」を発表しました。その要旨をここに掲載いたします。

大学情報・機関調査研究会 MJIR (Meeting on Japanese Institutional Research) とは

日本の高等教育機関および研究機関の自律的運営と、その発展に寄与する機関調査 (Institutional Research) を推進・支援する研究会。2012年より活動を開始。IRの事例紹介や研究発表を通じて、日本におけるIRの推進に寄与するとともに、経営学や統計学、情報科学など、関連する分野の研究者や実務家および教育者の人的交流の促進とネットワーク形成を図っている。

第7回 大学情報・機関調査研究集会

平成30年8月18・19日

大学共同利用機関法人 国立情報学研究所 (NII)

学生アンケート回答率向上の取り組み事例報告

高瀬雄一郎、玉造美恵、石井雅章、吉野知義、相良亜希（神田外語大学）

1. 本発表の目的

本発表は、神田外語大学（以下本学）にて実施している学生アンケートにおける、学生の回答率向上のために行われた施策と、その成果を報告することを目的とする。

2. 調査の概要と回答率の推移

本学における学生アンケートは、主に学生の意識・行動と学生生活に対する満足度の把握を目的とし、全学生を対象に2016年度より年1回行われている。

表1) 学生アンケートの実施概要

	2016年度	2017年度
調査期間	2016年9月15日(木) ～11月8日(火) [55日間]	2017年9月13日(水) ～10月31日(火) [49日間]
調査手法	Web アンケート	Web アンケート
設問数	37問	35問
想定所要時間	約25分	約20分
学生数	3,862人	3,949人
回答者数	396人	1,260人
回答率	10.3%	31.9%

初年度であった2016年度は、このようなアンケートに対する学生の反応を把握するため、他の学内アンケートや情報伝達でも使用されている基本的な周知方法のみを行った結果、回答率は10.3%にとどまった。2017年度は、2016年度に行った周知方法に加えて積極的な回答促進施策を行ったことにより、回答率は3.1倍の31.9%となった。

3. 回答促進施策

各年度に行われた回答促進施策と、その詳細を以下に示す。

表2) 各年度の回答促進施策

	2016年度	2017年度
学生ポータルサイト KUIS Campus web での周知	2回 (開始前日と35日目)	2回 (開始日と10日目)

ポスター掲示	17ヶ所 (調査開始のおよそ10日後～調査終了)	20ヶ所 (調査開始～終了)
授業での周知	IR 担当部署兼任教員の授業での周知 (3クラス・約70名)	<ul style="list-style-type: none"> 調査開始日に開催された教授会での周知 (その後どれだけ学生に周知が行われたかは不明) IR 担当部署兼任教員の授業での周知 (4クラス・約105名)
学生へのメール配信	35日目に全学生に配信	1～6日目に全学生に配信した後、未回答者へのリマインドメールを2回配信
自主学习施設と学生食堂の机へのステッカー貼付	×	8ヶ所に790枚 (2日目～調査終了)
Twitter での周知	×	1回 (32日目)
回答者へのインセンティブ付与	×	1,000円相当のギフトカードを 抽選で39人に付与

3-1. 学生ポータルサイト「KUIS Campus Web」での周知 (両年度実施)

教職員から学生へのお知らせや、イベント等の情報が掲載されるポータルサイト「KUIS Campus Web」内の「大学からのお知らせ」欄にて情報掲載を行った。また、「リンク」欄にアンケートサイトへのリンクを設定した。

図1) KUIS Campus Web

両年度とも2回の情報掲載を行っているが、2016年度は調査開始前日と期間中盤（35日目）に掲載したのに対して2017年度は調査開始日と期間序盤（10日目）に掲載と、その時期は異なっている。

3-2. ポスター掲示（両年度実施）

アンケート実施中であることを周知するポスターを学内各所に掲示した。2017年度は2016年度よりも早いタイミングから、多くの箇所に掲示を行った。

表3) ポスター掲示についての年度比較

	2016年度	2017年度
掲示期間	調査開始のおよそ10日後～調査終了	調査開始～終了
掲示箇所数	17ヶ所	20ヶ所
デザイン	 <p>KUISでの学生生活をより良くするための学生アンケートを実施しています。ぜひご協力ください。</p> <p>学生アンケート実施中</p> <p>GoogleフォームでのWeb回答です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CampusWebトップ画面右側の「学生アンケート」から ● 右のQRコードから <p>※KUISメールでGoogleへのログインが必要です。</p> <p>神田外語大学 学生課・教務課・IR推進室</p>	 <p>学生アンケート2017 実施中</p> <p>KUISでの学生生活をより良くするための学生アンケートを実施しています。ぜひご協力ください。</p> <p>昨年の結果は、2016年のアンケートに寄せられた声をもとに、学内施設の改善を行いました。</p> <p>今年は、回答者の中から抽選で39名の方に1,000円相当のギフト券をプレゼント</p> <p>GoogleフォームでのWeb回答です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CampusWebトップ画面右側の「学生アンケート」から ● 右のQRコードから <p>※KUISメールでGoogleへのログインが必要です。</p> <p>神田外語大学 学生課・教務課・IR推進室</p>

3-3. 授業での周知（両年度実施）

両年度とも本学 IR 推進室兼任教員1名が担当する授業において表4の通り学生への周知が行われており、その数は、2016年度は3授業・約70名の学生への周知だったのに対して、2017年度は4授業・約105名と拡大した。

表4) 授業で行われたアンケート協力依頼と対象人数

	周知日（調査開始からの日数）	対象人数
2016年度		
授業1	22日目	約25名
授業2	22日目	約20名
授業3	29日目	約25名

2017年度		
授業 1	2 日目	約25名
授業 2	2 日目	約25名
授業 3	2 日目	約25名
授業 4	7 日目	約30名

また2017年度は、調査開始日に行われた教授会にて授業での周知依頼を行ったが、その後どれだけ学生への周知が行われたかについては把握できていない。

3-4. 学生へのメール配信（両年度実施）

以下の通り、学生に調査協力を依頼するメールを配信した。

表5) 学生へのメール配信

回数	対象	配信日（調査開始からの日数）
2016年度		
1 回目	全学生	35日目
2017年度		
1 回目	全学生	1～6 日目
2 回目	未回答者約3,300名	29～31、43日目
3 回目	未回答者約2,800名	45～48日目

2016年度は調査期間中盤に1度だけ配信を行ったが、2017年度は調査開始直後に全学生に配信を行った後、中盤、終盤にも未回答者に対するリマインドを行った。

3-5. 自主学習施設と学生食堂の机へのステッカー貼付（2017年度のみ実施）

学内にある4つの自主学習施設と4つの食堂の机に、アンケートの案内と回答画面に誘導するQRコードを記載したステッカーを貼った。1つの机に1～2枚を目安とし、合計790枚となった。各施設に貼った枚数と、そこからのアクセス数（アクセス後最後まで回答を行ったかは不明）を以下に示す。

図2) ステッカーデザイン

学生アンケート 2017
実施中

KUISでの学生生活をより良くする
ための学生アンケートを実施しています
ぜひご協力ください

- Google フォームでの Web 回答です。
- 右の QR コードからアクセスしてください。

※ KUIS メールで Google へのログインが必要

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で 39 名の方に
1,000 円相当のギフト券をプレゼント

表6) ステッカーの貼付枚数と施設ごとのアクセス率

	貼付枚数 (枚)	アクセス数 (回)	1枚あたりアクセス数 (回)
図書館	200	59	0.295
SALC * ¹	150	36	0.24
メディアプラザ * ²	100	16	0.16
MULC * ³	40	5	0.125
学食 (4か所計)	300	36	0.12

* 1 : Self-Access Learning Center。語学学習のための様々な設備と、ネイティブ教員、専門の語学学習アドバイザーが揃った自立学習施設。

* 2 : 100台のPCがあり、レポート作成や資料検索など学生が自由に使用できる施設。

* 3 : Multilingual Communication Center。主に英語以外の言語を専攻とする学生の自立学習施設。各国の生活文化を代表する街並みや建物が再現されており、その中で留学生やネイティブ教員との交流を通じて言語と文化を学ぶことができる。

貼付1枚あたりのアクセス回数を見ると、食事や友人との談笑が主目的となる学生食堂よりも、自主学習施設の方がアクセスにつながっていることが分かる。また、自主学習施設内で比較すると、貼付枚数が多い方がより学生の目にとまり、1枚当たりのアクセス数は多くなっている。

3-6. Twitterでの周知 (2017年度のみ実施)

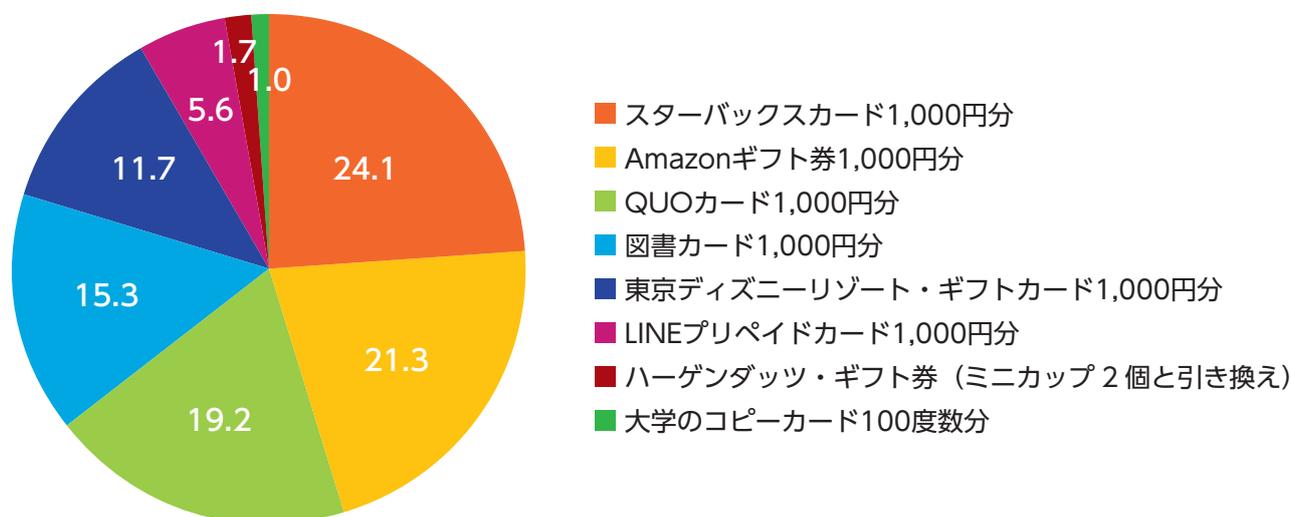
2017年度は、調査開始から32日目に本学図書館のTwitterアカウント (@KUIS_Lib / 2018年6月13日時点でフォロワー数2,838) よりアンケート協力依頼のツイートが行われた。

3-7. 回答者へのインセンティブ付与 (2017年度のみ実施)

2017年度は、調査協力者に対して抽選で1,000円相当のギフトカードが当たるというインセンティブを設けた。前年度回収数396件の10%を当選率として設定して、当選人数は39人とした。

景品については、初めての試みで何が学生の調査協力を促進するものとなるかが分からなかったことと、多様な学生の好みをカバーするため、複数の選択肢を用意してアンケートの最後に希望のものを選べるようにした。選択肢とした景品と、それぞれを選択した学生の割合は以下に示す。

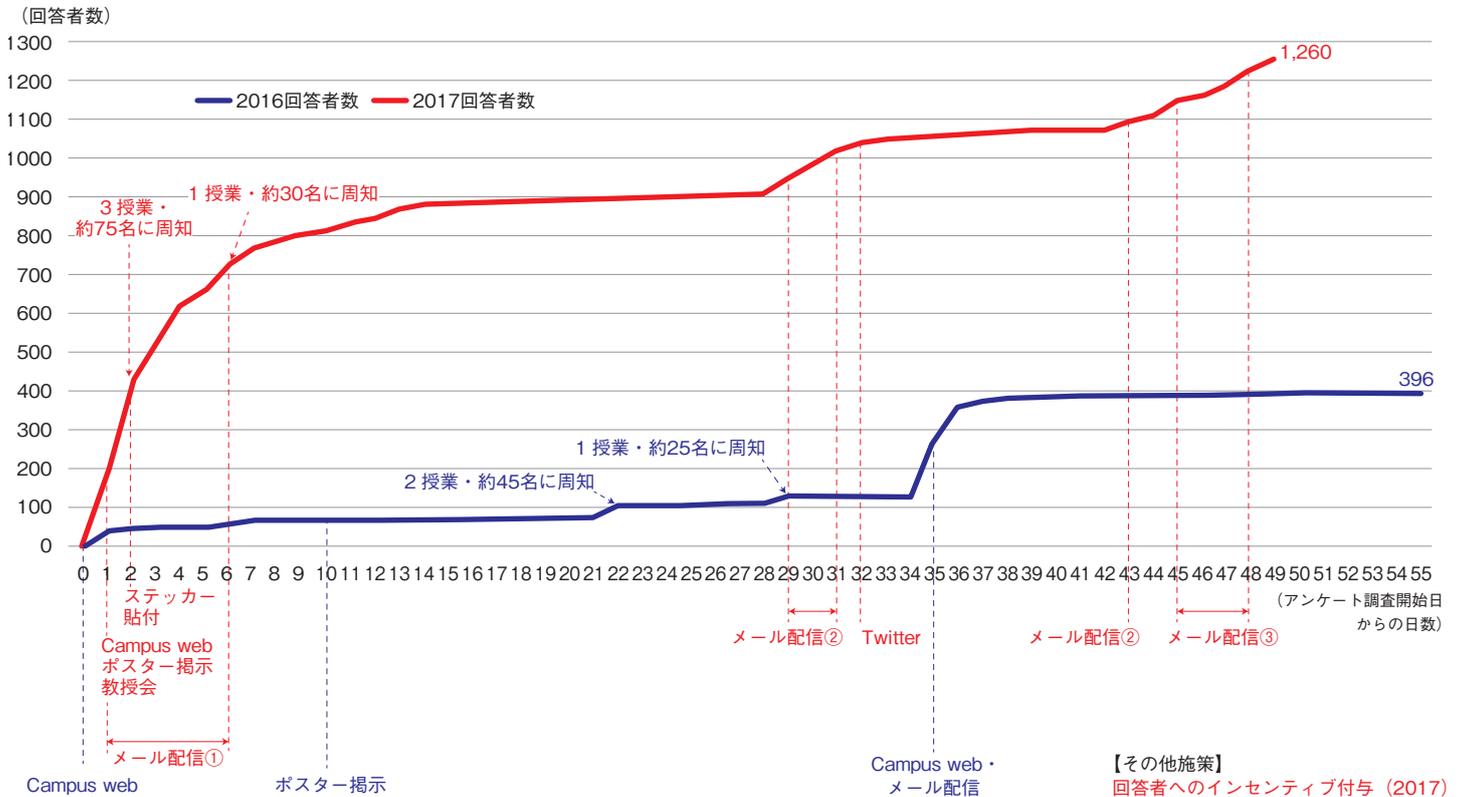
図3) 選択肢とした景品と、それぞれを選択した学生の割合



4. 回答者数の推移と考察

両年度の回答者数の日毎の推移と、3章で述べた回答促進施策を以下にまとめ、効果的な施策について考察を行う。

図4) アンケート回答者数の推移



2016年度の調査開始前日の Campus web、2016年度の3つの授業での周知、2017年度のメール配信②③は、それぞれ同時に行われた施策はないが回答者数は伸びていることから、これらはアンケート回答促進において効果的な手段であると言える。

一方でポスターは、2016年度の掲示後ほとんど回答者数が増えていないことから、あまり効果はないと考えられる。また、以下のことも推測することができる。

- 調査開始のタイミングで複数の施策を同時に行うことでアンケートに対する学生の認知が高まり、回答数増につながる。
- インセンティブの付与によって、各施策やアンケートそのものに対する学生の反応が良くなり、回答の増加につながっている。

5. 今後の改善案

2018年度も学生アンケートを実施予定であるが、その際は2017年度と同様の周知を基本としつつ、以下の改善を加えることがさらなる回答率向上へのポイントだと考えられる。

- 回答者数が横ばいになったタイミングでのメール配信（2017年度は14日目～28日目、35日目～42日目のあたりで中だるみが見られる）。
- より多くの授業での周知。

また景品についても、2017年度の結果を参考に、より人気のありそうなラインナップへの変更など改善の余地がある。

IR推進室主な活動記録 (2018年度)

4月

教職員対象IR分析報告会
「2016年度学生アンケートの他大学との比較について」

5月

大学IRコンソーシアム第6回定時総会出席

6月

前年度学生アンケート回答者
対象インタビュー調査

7月

8月

MJIR発表「学生アンケート回答率向上の
取り組み事例報告」

教職員対象IR分析報告会
「2017年度学生アンケートの他大学との比較について」

9月

2018年度学生アンケート実施 (9/13 ~ 10/31)

10月

来校した台湾大学訪問団に
本学のIRの取り組みを発表

11月

保護者懇談会にて学生アンケート
結果を報告

12月

卒業生アンケート2018実施

1月

大学IRコンソーシアムIRISシステム
2018年度「共通調査データ」登録

2月

卒業時アンケート実施
(2018年度卒業生対象)

3月



IR推進室メンバー (2019年4月1日現在)

室長 玉造 美恵

教員 石井 雅章 准教授
(言語メディア教育研究センター センター長)

次長 吉野 知義
(教務部次長、図書館課長)

主任 相良 亜希
(広報部主任、大学改革室主任)

主任 高瀬 雄一郎
(学生課主任)

主任 寺澤 岳生
(2019年4月よりIR推進室)

*上記以外に年間を通してアンケート (新聞社系・大学ランキング等) を回答。